

シロバナタンポポ



田住にて

(撮影：桐原真希)

日本には「タンポポ」という種名の花はない。そのことを知ったのは、高校の生物の授業でした。セイヨウタンポポとカントウタンポポの違いを教えてもらい、外来種と在来種の説明を聞きました。花の萼の外侧にある「総苞」(正確には外総苞片)という部分が反り返っていたら外来種、反り返っていないから在来種、という見分け方は、どこかで聞いたことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

日本には高山を好むタカネタンポポ、西日本に分布するカンサイタンポポ、千葉県から和歌山県の太平洋側で見られるヒロハタンポポなどなど、10種類以上のタンポポが咲きます。ところが、セイヨウタンポポの存在を知ってから在来種を気にせずと探しています

が、なかなか出会うことができません。しかも、平成17年に近畿地方で行われた調査で遺伝子分析をした結果、純粹な在来種が減っていることが紹介されました。5年過ぎた今ではもっと深刻な状況になっている可能性があります。

そんな中、南部町で在来種のシロバナタンポポを見つけました。一昨年の4月、田住におじやました時に道路沿いに普通に咲いていたのです。また会いにこなければと心の中で決めていました。そして、今年の2月22日に撮影、もう種になっていないのもありました。田住以外では福頼でさいていましたが、きちんと調べると他の場所にも白いタンポポが見られると思います。九州や四国では、白いタンポポのほうがむしろ常識で、上京した人が黄色いタンポポを見て驚いたという話も聞きます。

この春、西日本の各所からタンポポのサンプルを集めて本格的に遺伝子調査をするプロジェクトが行われます。自分の地区のタンポポが何タンポポなのか、あるいは雑種なのか知りたい方は「タンポポ調査・西日本2010実行委員会」(大阪自然環境保全協会内)のホームページにアクセスしてみてください。南部町の自然の中身がまた一つ明らかになるかもしれませんよ。

自然観察指導員 桐原真希